



県立病院ニュース

病院に関係する全ての人から信頼される病院を目指して

第141号 平成28年1月 病院局発行

県立吉田病院 創立60周年

～地域に信頼され愛される病院を目指して～

県立吉田病院の創立60周年記念講演会・祝賀会が11月21日（土）に盛大に行われました。講演会の挨拶では、須田院長から「昭和三十年に吉田の地に開院してから、地域に信頼され愛される病院をモットーに掲げてやってきて、六十年を迎えることができました」と講演会に集まった方に感謝の意が述べられました。



講演会で挨拶する須田院長

また、記念講演では平成28年に創業二百周年を迎える株式会社玉川堂の七代目、玉川基行社長が「伝統とは、技術を受け継ぎ革新を連続させること。燕のDNAは日々新しいことに挑戦していこうという心意気だと思っている。伝統という言葉を胸に秘めて、玉川堂の七代目としてもものづくりを進めていきたい。吉田病院六十周年、次の百周年を目指してお互いに革新をしていけるように」というお話がありました。

県立吉田病院も革新を続け、これからも地域に信頼され愛される病院を目指し皆様と共に歩んでいきたいと思っております。

講演会 次第

- 挨拶 須田院長
- 病院紹介 原副院長
- 記念講演 株式会社玉川堂
七代目 玉川基行 様
「不死鳥の燕～伝統とは革新の連続～」

祝賀会 次第

- 挨拶 須田院長
- 祝辞
燕市副市長 南波瑞夫 様
弥彦村長 小林豊彦 様
病院局長 若月道秀 様
- 名誉院長就任の祝い 等

吉田病院のあゆみ

- 昭和30年 5月 吉田町立病院として創立
- 昭和30年10月 県に移管、県立吉田として開院
- 昭和49年 4月 現在地へ移転（全面改築）
- 昭和52年 4月 小児慢性疾患病棟完成
- 平成15年 4月 子どもの心外来診療開始
- 平成27年 9月 地域包括ケア病床（11床）導入

病院の理念

地域に信頼され愛される病院

1. 患者さん中心の医療を提供します
2. 良質で安全な医療・看護を提供します
3. 地域医療機関と連携し、地域医療水準の向上に努めます

院長等を対象としたトップマネジメント研修の開催！

～コーチング流リーダーシップと病院マネジメント～

院長等を対象にトップマネジメント研修が11月19日（木）に新潟グランドホテルで開催されました。トップマネジメント研修は、「信頼される病院」を目指し、病院のトップリーダーとしてマネジメント力等の強化を図ることを目的に、平成26年度から開催されています。2度目となる今年度は、畑塾クロスマネジメント代表の畑塾（はたの）氏を講師にお招きし、「コーチング流リーダーシップと病院マネジメント」と題して、リーダーとしての心得やマネジメントについてお話を頂きました。講師の畑塾氏は和歌山県立医科大学附属病院院長を歴任し、現在、和歌山県立医科大学の名誉教授や臨床コーチング研究会の名誉会長も務められています。

研修では、「医局をまとめる院長は、医師にやりがい感を持たせ、モチベーションを上げることで良好なチーム医療の実践につなげている」、「院長がどんな組織になってほしいか語り、事務長が言語化し、職員に周知するその役割分担が大切」、「トップはプライドを下げ、情報が集まりやすいようにする」などのお話がありました。



ワークショップ（写真左から新発田病院高橋看護部長
病院局山本業務指導監、新発田病院堂前院長）

また、ワークショップでは自己のコーチングタイプ別診断を行いました。自己のタイプを知るとともに、部下にコーチングする時の注意点についてグループワークを通じて学んでいただきました。普段グループワークをするような機会はあまりなく、非常に盛り上がりました。興味がある方は、是非一度タイプ別診断をやられてみてはいかがでしょうか。

また、ワークショップでは自己のコーチングタイプ別診断を行いました。自己のタイプを知るとともに、部下にコーチングする時の注意点についてグループワークを通じて学んでいただきました。普段グループワークをするような機会はあまりなく、非常に盛り上がりました。興味がある方は、是非一度タイプ別診断をやられてみてはいかがでしょうか。

タイプ別診断 特徴 (株) コーチ・トゥエンティワン CSI簡易版テスト (<http://www.jah.ne.jp/~pegira/cgi-bin/coach/coach.html>)

○ コントローラー (controller)

行動的でエネルギッシュ。思い通りにしたがる。他人の不正や偽善を暴露することを使命と考える。正直であけっぴろげ。過剰に快感を求め、依存しやすい。自分の内面に目を向けるのは苦手。

○ プロモーター (promoter)

アイデアが抱負で創造力がある。楽しいことが好き。計画を立てるは苦手。悪く言えばあきっぽく、良く言えば変化への順応性が高い。包括的な仮説を立てる才能がある。アイデアは成り行き任せで非現実的だが、新しい可能性を見つける。仕切るのが好きで、得意でもある。

○ サポーター (supporter)

人を援助したがる。温かく、穏やか。職場では協調性が高く、意欲もある。計画や目標を立てることに関心がない。決断には時間がかかる。人の心を読むのが得意。直感力がある。感情に基づいて判断する。

○ アナライザー (analyzer)

物事に取り組むとき、データに基づく分析から始める。計画を立て、粘り強く、最後までやりとげる。変化や混乱には弱い。理解力や洞察力が高く、的確な意思決定ができる。明確で論理的な話し方をする。

トリアージ訓練を実施しました！！

～災害医療に対する協力体制の強化を目指して 加茂病院の取組～

加茂病院で災害医療に対する職員の理解と協力体制の強化を目的として、トリアージ訓練が10月20日（火）に実施されました。訓練は、東日本大震災の発生した平成23年10月に実施して以来、4年ぶり2回目の実施です。医師、看護師をはじめ各部門の職員や加茂地域消防署職員を含め総勢55人が参加しました。当日は患者役など訓練とは思えない迫真の演技で、本番さながらの臨場感のある訓練になりました。トリアージは傷病者の重症度や緊急度に応じて、治療や搬送の優先順位を決定することであり、自然災害や多重事故等が発生した場合、限られた医療資源を最大限に活用し、救命治療を適切に実施するための重要なファクターです。



負傷者の受入れを行う加茂病院職員

実際の災害現場では、どのような疾病が発生しているかわからず、医療現場が混乱するため、日頃の訓練が重要になるとの院長講評のとおり、消防署との連携を含めた災害時訓練を重ねることによって、初めて迅速・的確な対応が可能になるものと考えます。

今回の訓練は、災害医療に対する病院職員の意識の醸成を図る良い機会であり、今後活かしていければと思います。

包括的暴力防止プログラム（CVPPP）トレーナー養成研修を終えて

精神医療センター 主任看護師 曳地洋祐



【写真上】精神医療センタースタッフ一同（右から2番目 曳地さん）

【写真下】演習の様子

精神医療センター主催で、11月13日、16日～18日の4日間、CVPPPトレーナー資格取得のための研修を開催しました。CVPPPは聞き慣れない言葉ですが、暴力に対する理論、倫理、法的側面、言語的・身体的介入方法を学んで、暴力に対して包括的に対処できる技能で、精神科を中心に全国的に広がっています。

全国でもトレーナー養成研修を実施できる施設は限られています。今回の研修では、他の施設から参加された21名全員が資格認定されました。研修の準備や体制づくりなどに取り組み今回の研修が大きなトラブルなく終わることができ、本当にうれしく思っています。

今回研修を行った事で、CVPPPの技術や理念の再学習をすることができ、職員のモチベーションを高めることができました。今回得た経験を、院内の職員に還元していくことが精神医療センターのCVPPP技術の向上につながると思っています。

(津川病院) ITを活用したへき地医療への取組

～電子カルテシステムを利用した訪問診療・訪問看護～

津川病院では、平成26年5月に電子カルテシステムを導入し訪問診療、訪問看護のIT化を進めてきました。導入前は、数日前に伝票や処方箋を準備し情報収集を行い、カルテは大きな衣装ケースに入れて持ち出していました。導入後は、必要物品が少なくなりモバイルPCとWiFiルーター、モバイルプリンターと処方箋用紙をかばんに入れて持ち運んでいます。

訪問診療では、医師がPCやプリンターを机にセッティングし、その間に看護師は患者さんの体温、血圧測定などを行っています。診察後、カルテ入力を行い、処方箋を発行し患者さんに渡します。患者さんのカルテ情報は病院内で診察しているときと同様に、PC上でタイムリーに把握できるようになっています。



訪問診療を行う原院長



訪問看護を行う病院職員

また、レントゲンやCTなどの画像や検査結果をPC画面で患者さんや家族にお見せして説明しています。さらに、病院での検査が必要な場合は、訪問先で予約状況を確認し、患者さんやご家族の希望に合わせて予約することが可能になりました。患者さんやご家族からは「処方箋がすぐに受け取れる。」「自分が動けなくても先生がPC画像を見せて説明してくれるからよくわかる。」「予約がすぐに取れるから予定が立てやすい。」など好評です。また、訪問看護時に医師へ報告が必要な場合は、携帯電話で連絡し医師と看護師がお互いにカルテ画面を開きながら情報共有することで、医師からの指示をすみやかに受けることができます。そのため、訪問先からの受診や入院のスムーズな受け入れが可能となっています。

IT化への取組によりタイムリーな情報共有、業務の効率化、円滑な医療、看護の連携が図れるようになりました。今回のIT化へ取組が、在宅医療を担う病院における多職種と地域との連携強化につながると考えています。

「信頼される病院づくり」にかかる取組をお知らせください！

皆様からの「こんなことやっているよ」という情報提供や投稿を心からお待ちしております！

病院局業務課改革室

E-mail: ngt400020@pref.niigata.lg.jp

